

「JENESYS2.0」2016年度中国農村青年幹部代表团

参加者の感想（抜粋）

○ 今回の訪日では、政府の農業政策から、農事組合法人および農協等の発展状況、さらには農家の栽培や卸売市場の運営等に至るまで、農業に関連する各方面を見学し、視野を広げることができた。様々な角度から、日本が自国農業の振興のために行っている取組みを観察することができたと思う。実は日本の農業の現状には、中国と共通するところがたくさんある。中国でも現在、農業と第2次、第3次産業を結び付ける努力をしており、機械化による大規模生産を大いに提唱すると同時に、小規模ながらも質の高い農業体験地域を少なからず残すこともしている。したがって、日本の農業が得た数多くの経験や方法は、私たちにたくさんのヒントを与えてくれた。特に、人と人の協力という点に深く感銘を受けた。もし中国で皆が心一つにして農業生産に真剣に取り組み、農業の安全が保証されれば、中国の農業はより一層発展していくことができると思う。

○ 自分は日本のアニメを見て育った。日本の文学、科学技術、第二次世界大戦後の急速な成長。日本人の想像力、思考力、創造力には驚嘆する。今回の日本行きは、自分にとって最初の海外体験であり、同時に、初めて先進国を訪れ、いったいどのようなものが「先進的」であるのかを見る機会であった。8日間の滞在は短く、あっという間に時間が過ぎたが、大きな収穫を得ることができた。以下に六つのポイントを挙げる。

第一に、自然環境が素晴らしい。中国には「塵一つない」という意味の成語があるが、それが都市と農村に実在するというのを、日本に来て初めて知った。滞在中ずっと観察していたにもかかわらず、ゴミ一つ目にしなかったというくらいの清潔さであり、人と自然が見事に調和しているのを感じた。第二に、日本ではゴミを捨てる際、細かく分別する。ゴミの分別のしかたについて系統だった知識を授けられていない私は、日本ではどうやってゴミを捨てればよいのか皆目見当がつかない。日本のゴミ分別は厳格で細かい。農家での民泊体験の際、受け入れ家庭の御主人に、ゴミの分別の仕方を教えてもらった。家の中にゴミの種類ごとにゴミ箱が用意されているのを見て、私は感心した。第三に、国民の資質が高い。日本人は親切で、我慢強く、礼儀正しい。時間を厳格に守り、規範にのっとって行動する。誰もが皆非常に理性的で、全てにわたり他人への心配りを欠かさない。第四に、礼儀がよく伝承されている。第五は、日本では都市ごとに特色があり、農村の近代化においては、画一的な農場をつくるのではなく、それぞれの特色を出している。農村にビルを建てたりすることはせず、自然と調和させている。農村の本来あるべき姿を見たという気がした。第六に、高齢化が深刻である。中国では、年寄りを外で働かせると親不孝と思われる上、自分自身の気持ちとしても抵抗がある。しかし、日本の高齢者は働き続ける。特に、芝浦水再生センターや私たちが宿泊した富士野屋夕亭旅館では、いずれにおいても年配者が働き、自分の生活を送っていた。これは、中国と大きく異なる点である。

以上のことを全て周りの人たちに伝えたい。特に環境保全の面を伝え、自然環境をより良好で快適なものにしたい。最後に、お世話になった日本側随員スタッフに心から感謝する。

○ 今回の訪日では大いに感銘を受けた。中でも最も強く印象に残ったのは、日本の農業の組織形式と日本人が伝統文化を大切にしていることである。

日本の農業においても、農地の遊休化や農業従事者の高齢化等、中国が現在直面している課題がかねてより発生している。これらの課題に対して、日本では地域の状況に応じて農事組合法人田原や横浜農業協同組合のような組織を設立することで、それまで個々に農業経営を行っていた農業生

産者の協働を進めた。農事組合法人は農村の「空洞化」の解決に効果を発揮し、農業協同組合は、都市型農業の推進を通して農家の増収を図るとともに、市民に農業の大切さを知ってもらうための取組みを進めている。

8月6日の農家民泊では、受入家庭の御主人が私たち団員数名を伊那市の夏祭りに連れて行ってくれた。驚いたことに、こういう伝統的なお祭りに、お年寄りだけでなく、学生や若者も大勢参加していた。彼らは通り全体を使って、伝統的な舞を思う存分に踊っていた。日本らしい趣が通り全体にみなぎっていた。日本と比べて、中国は特に伝統的な祭りの継承という点では、不十分であると思う。

明日は北京に帰る。帰国したら、親戚や友人に自分が日本で見聞したことや、日本の美しい自然環境、温かく友好的な日本人たち、整然とした秩序ある雰囲気、先進的な科学技術レベルについて詳しく話してあげたい。周りの人たちと共有することで、彼らに日本に対する認識を一新してもらいたい。

○ 日本に対するイメージといえば、四方を海に囲まれていて、文学、映画、グルメの面で秀でている国という程度のものであったが、今回の訪日を通して日本に対する理解が深まり、農業分野や文化、風土、人等について、それぞれ程度の差こそあれ、認識を深めることができた。

農林水産省によるブリーフや水再生センター、大田市場、山梨県および長野県の各訪問先での視察を通して、日本農業の先進性を体感した。日本の農業には、整えられた組織体制と厳格な検査システムがあり、農家は朝早くから夜遅くまで汗水流して働いている。それにより、日本人は安全・安心な食品を口にすることができているのである。また、日本の汚水処理も非常に先進的で、日々、汚水や廃水を処理し再生利用しており、水資源の節約を見事に成し遂げている。

農家での民泊体験では、日本のお年寄りに敬服した。日本では高齢化が進んでいるが、お年寄りたちは身体が丈夫で、気持ちも若い。年を取ったからといって耕作をやめたりしない。日本人たちはとても親切で、言葉が通じなくても不自由を感じなかった。心を尽くして、私たちのためにごちそうを作ってもてなしてくれた。彼らとの交流からも得るところが多かった。

従来イメージで、日本人は中国人に対して余り友好的とは思っていなかった。しかし今回の訪問を経て、私は中国の人々にこう言いたい。日本人はとても友好的で、日本は環境も本当にすばらしく、至る所に美しい景観があるので、是非日本を訪れてほしい！

○ 真剣に努力し、ともに発展を

今回、中国の農村青年幹部の一員として、交流と学習のために日本を訪れる機会を国が与えてくれたことに感謝している。日本について、以下の三つの点が最も強く印象に残った。

1. 日本人の礼儀正しさとお客のもてなし方
2. 省エネルギーおよび自然環境保全のやり方
3. 農業生産で用いられている形態と方法

日本人の親切さについては、この国を訪れる前には知らなかった。以前、日本人に関する記憶といえば、中国人を傷つけたということしかなかった。しかし、今回日本を訪れてみて、日本人は誰もがたいへん礼儀正しく、私たちに親切であり、もてなし方も行き届いているということを知り、私の日本人に対する見方が変わった。このことも自分の周りの人たちに伝えるつもりである。

2点目は、日本では資源の利用において、省エネルギーと環境保全が進んでおり、大自然がもたらす恵みを大切にしている。自国の自然環境を十分に活用し、一度使ったものを回収し、浄化した後に再利用している。これらは現在のところ中国では成し得ていないことであるので、帰国したら

周りの人たちにこの環境保全の考え方を伝え、身近な資源を大切にしていきたい。

最後の3点目も自分の現在の仕事と密接な関連がある内容である。農業における日本の発展方式は中国のものとはまったく異なっており、テーマパークや体験教室、水田での耕作体験、農家民泊等の人々が楽しめる要素を農業生産の中に組み込み、農業の付加価値を上げている。これは、私たちも深く掘り下げて検討し、その理念を学ぶに値するものである。

○ 今回の訪日では、多くの収穫があった。第一に、視野を広げることができた。「万卷の書を読むより、万里の道を歩む方がよい」ということわざの通り、滞在中は広く日本の各方面に触れ、日本の発展の歩みを多面的に学ぶとともに、中国とは異なる国情や人々の考え方、文化について理解を深め、多くの収穫を得ることができた。第二に、考える上でのヒントを与えてもらった。特に、農業における規範化の取組みが強く印象に残った。例えば、農産物の品質トレーサビリティシステムや大田市場の価格決定ルール、耕作放棄地の集積利用、農業法人による共同農業経営等、参考になる点がたくさんあった。第三に、交流を深めることができた。滞在中は日本の皆さんと親しく交わり、特に青木村の農家民泊では、地元の農家の人たちの誠実で素朴な気風に触れ、一層深い親しみを感じた。一晩の交流を通じて、厚い友情を結ぶことができた。

○ 農林水産省のブリーフにはじまり、大田市場の見学、さらには青木村等での農村体験に至るプログラムを通じて、様々なことを考えさせられた。

- (1) プログラムが綿密に組み立てられており、手配も実に周到であった。
- (2) 農業生産から流通、販売に至るまで、少しの混乱もない。
- (3) 環境保全では中国よりもはるかに勝っている。いずれの環境も快適で、自然が豊かである。
- (4) 日本の国民は国への忠誠心があり、全体的に資質が高い。これは長期にわたる教育によるものである。
- (5) 日本人は時間の観念が強く、てきぱきとして、効率が高い。
- (6) 集団の利益のために一致団結する精神が、日本の国民一人一人の身に体現されている。
- (7) 礼儀がきわめて重んじられている。
- (8) 細部まで気を配り、積極的で緊張感のある生活態度。

日本の国情や国民の様子を知るといっても、また、身をもって農村の状況を体験するという点においても、今回の訪問では大きな収穫を得ることができたと思う。プログラムが効率よく組み立てられ、人員が適切に手配されており、じつに周到かつ細やかで、一つの手抜かりもなかったことには、感心せずにはいられない。しかし、最も心に残ったことといえば、やはり農村の暮らしを体験できたことである。特に、青木村では村のありのままの生活を体験できた。彼らの夏祭りに参加した。村民たちは、自分たちの村を文化と伝統の村にしようと一生懸命だった。一致団結し、困難を恐れず、ひたすら前向きに努力する姿勢は、私たち一人一人が学ぶに値するものである。村の一員として、村長らが自ら進んで非営利団体を立ち上げ、村の発展のためにひたすら力を尽くしている。彼らの行動は全て、村をよりよい方向に発展させるためにある。村長は、自分たちはすでに若くはないが、あきらめず、皆さんと同じように奮闘しなければと語っていた。私たちが宿泊した農家の「家長」はすでに75歳でありながら、残りの人生を使って村の発展のために貢献したいと話していた。これがつまり青木村の発展の理由であろう。帰国したら、自分の村の村民に伝えたい。資質の向上と思想の進歩は私たちの必修科目であり、青木村の村民のように、村民一人一人が村の発展のために主体的に努力してこそ、よい暮らしやよい環境、よい国を築くことができるのだということ。そして、日本の農村の現状を伝え、村民一人一人に一致団結する力を届けたい。日本の農村の発展方

式が、私によいお手本を示してくれた。中国と日本が盛んに交流を行い、様々な分野でともに前進できるようお願いしている。

○ 農村青年幹部の一員である私にとって、農業、農村、農民はまさに自分の専門分野である。今回の訪問を通して日本の農業の状況について知り、以下の点が参考になった。

- (1) 我が国の農業は従来の作物耕作が中心であり、肉体労働であるため、大多数の若者は従事したがない。しかし、日本では農業と加工、製造、販売、サービス等の業種を融合させて 6 次産業化を進めており、これらの農業関連産業が多くを若者を引きつけ、就業を促している。
- (2) 食の安全の問題は、日本でも重要視されている。日本の厳格な責任追及システムは、我が国のそれと比べてはるかに行き届いたものであり、食品による健康被害の問題を最大限に防いでいる。このシステムを参考にして、改善することができる。
- (3) 日本では、省スペースや資源利用の効率化が重視されており、これは中国の持続可能な発展や科学的根拠に基づく発展のために参考となるものである。

○ 訪日の感想

1 週間の訪日プログラムは、まもなく終わろうとしている。今回の訪日は、日本に対する新しい理解と認識を私にもたらしてくれた。このわずか数日間の滞在で、日本は私に強い印象を残した。

食料安全保障は、国家の安全性を示す上での重要な指標である。経済の高度成長を遂げ、十分な工業基盤を持ち、ハイレベルなサービス業を有する国が、なおも食料安全保障を重視し、自国の農業の発展に力を注ぎ、農業生産の多様性を保ち、限られた面積の農地で耕作し、農業を発展させている。このことを、中国の人々は知り、学ぶべきである。中国は人口が多く、耕地面積が少ない。いかにして食料安全保障を確かなものにし、近代的な農業を発展させていくかについては、しっかりと日本に学ぶ必要がある。

日本では、伝統文化の保存と文化の継承がきちんと実現していることに感心した。8月6日に青木村で農家民泊を行った際、地元の村祭りに参加した。この村祭りは、年配者によって重要視されているばかりではなく、子供たちにとっても大切な行事となっていた。ちびっこたちに太鼓打ちをさせたり、揃いの衣装を纏わせたりして、幼少の頃から伝統文化の薫陶を受けさせることは、文化の継承に役立つだろう。中国の歴史はさらに悠久であり、五千年の文明はもっと大事にされ、伝承されていく必要があるが、中国人は伝統文化を発揚させようという意識が薄く、青少年に対する伝統文化の教育も十分に行われているとはいえない。この点は、もっと重視する必要がある。

結びに、今回の訪問で日本を再認識し、特に末端の部分も知ることができた。日本の皆さんに温かく迎えてもらう中で、より多くのことを理解し、大多数の日本人が持つ友好の精神を発揮させ、中日友好のため、強大な中国をつくるため、そして両国をともに発展させていくため、微力ながら貢献したい。

○ 今回の訪日で印象に残ったのは、まず、スタッフの皆さんが親切で、周到かつ気配りが細やかであることだ。次に、農業分野の視察と学習を通して、日本の農業においては、役割が細分化されており、仕事の進め方は慎重で、食品の安全保障体制が整っていると感じた。汚水処理場の見学では、都市の美しさを保つには、「表側」のみならず、科学的かつシステム化された「裏側」が必要であることを知った。これらのことは全て、自分が帰国後に考え、着手したい事柄である。農家民泊では、初めて日本の人たちの暮らしぶりに直に触れる機会を得て、日本人の真心を深く感じ取った。一緒にご飯を作り、一緒に散歩し、一緒に夏祭りに行っただけのシンプルな 1 日であったが、

別れ際に流した涙が全てを物語っていた。北杜市の耕作放棄地利用の取組みは、帰国後に農村の土地利用の適正化を進める上でのヒントを与えてくれた。最終日に訪れた横浜農業協同組合での視察・交流では、日本の農業に直に触れることができた。

今回のプログラムは充実したものであった。前述した具体的な収穫以外に、最大の収穫は自分の心の変化だ。帰国後は、純粋な心で祖国のために全力を尽くそうと思う。

最後に、日中両国の友好交流と友情がいつまでも続くよう心から願う。

○ 末端の農村青年幹部である自分にとって、今回の農業関連のプログラム（ブリーフおよび現地視察）は、いずれも大きな影響を与えてくれるものであった。日本の農業は、土地利用、食の安全、科学技術等のいずれの面においても我々よりも進んでいることは、明らかである。我が国においては目下、「三農」の問題が突出している。土地利用率は低く、科学技術レベルも低い。多くの地域で、いまだに旧来型の耕作が行われている。帰国後は、自分の村の実情に照らし、より合理的に土地を利用できるように農民を導くとともに、農民の考え方についても指導していきたい。近い将来、中国においても日本のように近代的かつ科学技術に基づいた大規模農業を実現できるようにしたい。

○ 日本の農村の発展レベルはきわめて高く、機械化も進んでいる。日本では、進んだ農業の理念と先端技術を農業生産に採り入れることで、農業生産において各種廃棄物をリサイクルし、再利用するための完璧な循環システムが形作られている。農業生産においては、環境保全の理念も随所に見受けられる。日本の農村には美しい自然の風景があるばかりでなく、農産物も安心・安全である。日本の農業の技術と理念を学び、耕作放棄地の有効利用や農業廃棄物の再利用や、農林水産における進んだ技術と方法を吸収し、我が国の農村建設と農業生産に活用することが可能である。日本での農業視察と農村生活の体験を活かし、我が国の農業に一層の貢献をしたいと思う。

- 一．日本は農業の発展を非常に重視しており、独自の効果的な取組みや方法がある。その中には、我々にとって大いに参考になるものがある。
- 二．日本では環境保全が重要視されており、再生利用について深く掘り下げた研究が行われている。芝浦水再生センターでは、事務棟の暖房等は全て再生エネルギーを利用していた。また、山梨県北杜市のトマト栽培ハウスでも太陽エネルギーを利用していた。これらは全て学ぶに値する。
- 三．日本の農村は整然としていて、清潔である。その「美しく活力ある農山漁村」と我が国の「美しい農村」建設には、相通じるものがある。

○ 今回の訪日では、芝浦水再生センター、東京都中央卸売市場大田市場、山梨県北杜市の先進農業基地等を視察し、主に以下の収穫を得た。第一に、日本の污水（排水）処理においては、絶えず技術の改善を図りながら、環境との調和を実現している。第二に、卸売市場の取扱量と供給能力は強大で、その運営方式と経営理念には学ぶべきところがある。第三に、北杜市の先進農業基地では液肥技術とハウス栽培技術を用いてトマトの成長をコントロールし、単位面積当たりの収量と品質を高めている。これは土地集約化栽培のお手本であり、先進的集約化農業の技術レベルを示している。この分野での交流と協力を強化すれば、双方にとって利益があると思う。

○ 日本で学び、交流を行う今回のような貴重な機会を与えてくれた日中友好会館に感謝する。5

日間という短い滞在ではあったが、非常に印象深い経験となった。最初の白紙の状態からスタートし、現在のリアルかつ深い体験を得るまでの変化の過程は、主に以下のいくつかの面に及んでる。第一に、環境保全において、日本では汚水処理や一般ゴミの分別処理が非常に重視されている。この数日間、東京においても北杜市においても、また公共の場所においても各種の場所においても、汚水が溢れていたり、ゴミが至る所に落ちていたりというようなことはなく、どの通りも清潔で整然としていた。第二に、インフラ設備の面で、日本の農村では住宅建築計画に対する検査が厳しく、景観や建築面積を統一し、道路上には穴が一つもなく、厳しい品質検査を行っている。第三に、近代的な農業の面で、耕作放棄地を価値ある土地に変え、荒地に大規模な桃林や野菜・果物の栽培ハウス等を建設している。食卓の安全を守るため、農薬や化学肥料の使用量を減らし、品質を保証している。第四に、公共秩序の面で、東京は人口密度が高く、交通量も多いが、非常に秩序があるという印象を受けた。赤信号を無視したり、頻繁に車線変更をしたり、横入りをしたりするようなことは見られなかった。東京の市民に対する私の印象は、とてもフレンドリーで、細部を大切にし、進んで他人の手助けをする、というものである。帰国後は、自分の感じたことをありのままに友人や家族に伝えるつもりである。日本の人たちにも是非中国を訪れて、自然の風景や人、文化に触れてほしいと思う。